

将来にわたり保険金・給付金等を確実にお支払いするため、高い健全性を維持しつつ、安定した資産運用収益確保に努めています。

■ 資産運用の基本理念・基本方針

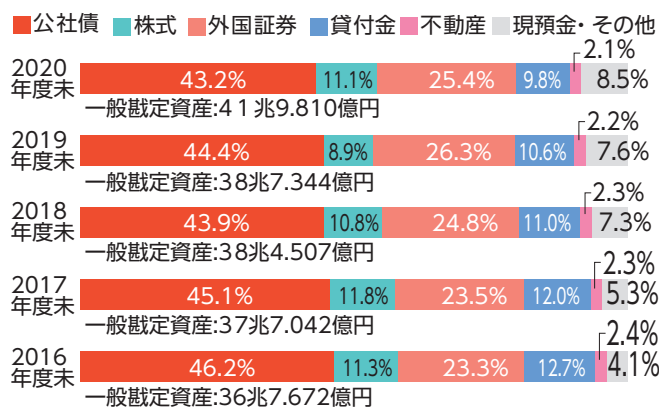
生命保険会社の資産運用は、お客さまからお預かりした保険料を原資としており、長期安定運用を使命としています。そのため、当社では、「ALMの考え方に基づき、良好な運用成果を長期にわたり安定的に確保する資産運用をめざすとともに、高度なリスク管理による資産健全性の維持・向上を図ること」を基本理念とし、以下の基本方針のもと、資産運用に取り組んでいます。

ア．安定性	公社債などの円金利資産を中心に、安定収益の確保を最優先とした運用を行なっています。
イ．収益性	厳格なリスク管理のもと、リスクに応じた収益の獲得を図るとともに、保険商品ごとの負債の特性等も考慮し、安定的な収益確保に努めた運用を行なっています。
ウ．健全性	資産運用リスクの多様化・複雑化に対応すべく、リスク管理態勢の強化・高度化に継続的に取り組み、資産健全性の維持・向上に努めています。
エ．流動性	投融资の判断においては、保険金等の迅速・確実なお支払いのため、流動性の高い資産を適正な水準に維持しています。
オ．透明性	資産運用状況の適切かつわかりやすい開示により、透明度の高い運用に努めています。
カ．コンプライアンス	保険会社として高い公共性を有していることを認識し、資産運用における各組織間の相互牽制が十分機能する内部管理態勢を堅持し、高い企業倫理を維持しています。

■ 安定的な資産運用・高い健全性

■ 資産配分の推移(一般勘定)

公社債が全体の約4割超を占める等、長期・安定的な資産運用を実施しています。



■ 資産全体の含み損益の状況(一般勘定)

6兆5,224億円

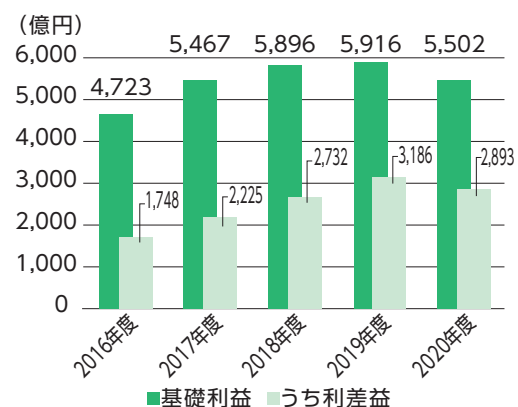
「含み損益」とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、保険会社の企業体力をあらわすものの一つです。当社は、2021年3月末において、6兆円を上回る含み益を確保しています。

【用語解説】

ALM(アセット・ライアビリティ・マネジメント): 資産と負債の総合的な管理の略称。ALMの基本的な役割は、保険契約に基づく保険金・給付金等(保険会社にとっての負債)の特性に応じた資産運用を行なうこと、また資産運用の環境を商品設計・販売戦略等に適切に反映させていくことにあります。

■ 基礎利益・利差益(※)の推移

不安定な市場環境のなか、安定的な資産運用収益を確保しています。



※保険料算定時に想定した利益に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

責任ある機関投資家として、SDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献の観点から、責任投資を推進しています。

■ 責任投資の推進

当社は「確かな安心を、いつまでも」という経営理念のもと、責任ある機関投資家としてご契約者へ還元するための収益性を確保しつつ、SDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献の観点から「環境(E:Environment)」、「社会(S:Social)」、「ガバナンス(G:Governance)」等の社会課題を考慮した、「ESG投融資」や「スチュワードシップ活動」等の責任投資を推進しています。

■ ESG投融資の推進

当社は、ESG投融資を通じて、地域経済活性化等の地域貢献に注力するとともに、生命保険会社としての社会的責任や公共的使命を果たすとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

主なESG投融資の取組み

2020年度は、SDGs達成に貢献するグリーンボンドやプロジェクトファイナンスなどのESGテーマ型投融資に約1,500億円を実行しました。

被災地復興支援に資する太陽光発電事業向けプロジェクトへの融資(30億円)

・融資資金は、宮城県名取市にある宮城県農業高等学校跡地を有効活用した出力26.3MW、一般家庭約7,700世帯の年間電力消費量に相当する規模の太陽光発電所「名取ソーラーウェイ」向け資金に充当
(JAG国際エナジー株式会社提供)

国内初となる洋上風力発電事業向けプロジェクトへの融資(50億円)

・融資資金は、秋田県秋田港及び能代港にて、日本国内で初の商業ベースでの大型洋上風力発電事業となる着床式風力発電所資金に充当
(秋田洋上風力発電株式会社提供)

脱炭素経済への移行に資するプロジェクトに充当される「グリーンボンド」への投資(約119億円)

・フランスの農業系金融機関であるクレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンクが発行するグリーンボンドへの投資・投資資金は、クレディ・アグリコル・グループの「グリーン・ボンド・フレームワーク」に基づき、脱炭素経済への移行に資するプロジェクトや関連事業に充当
(クレディ・アグリコルCIB提供)

サステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資(約108億円)

・世界銀行が発行する「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」への投資・投資資金は、開発途上国の貧困と不平等の削減に向けたデジタル技術開発に充当
・本投資は、当社と世界銀行がデジタル開発の必要性を共に提起したはじめての取組み
(世界銀行提供)



SDGs 達成への貢献

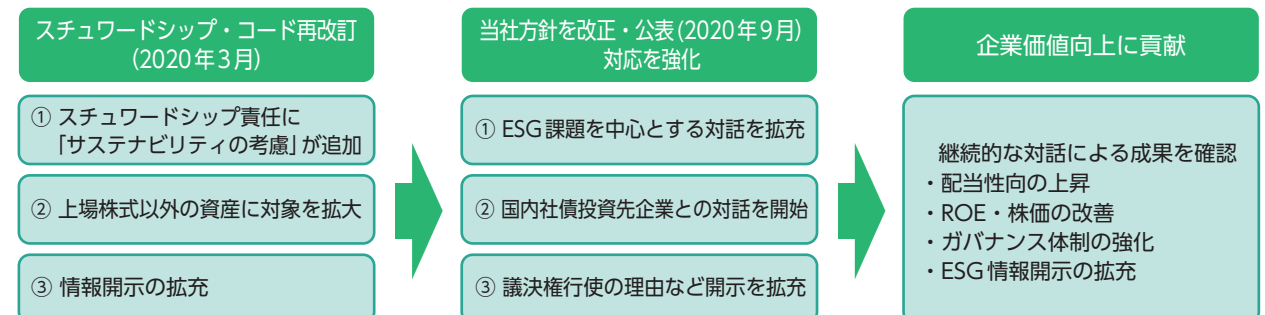
【用語解説】

ESG投融資：環境・社会・ガバナンス(企業統治)の3つの観点から企業の将来性や持続性を分析・評価し、社会的課題の解決と長期安定的な運用収益の確保を実現する投融資のこと

責任ある機関投資家として、責任投資等を通じ、脱炭素社会実現へ貢献していきます。

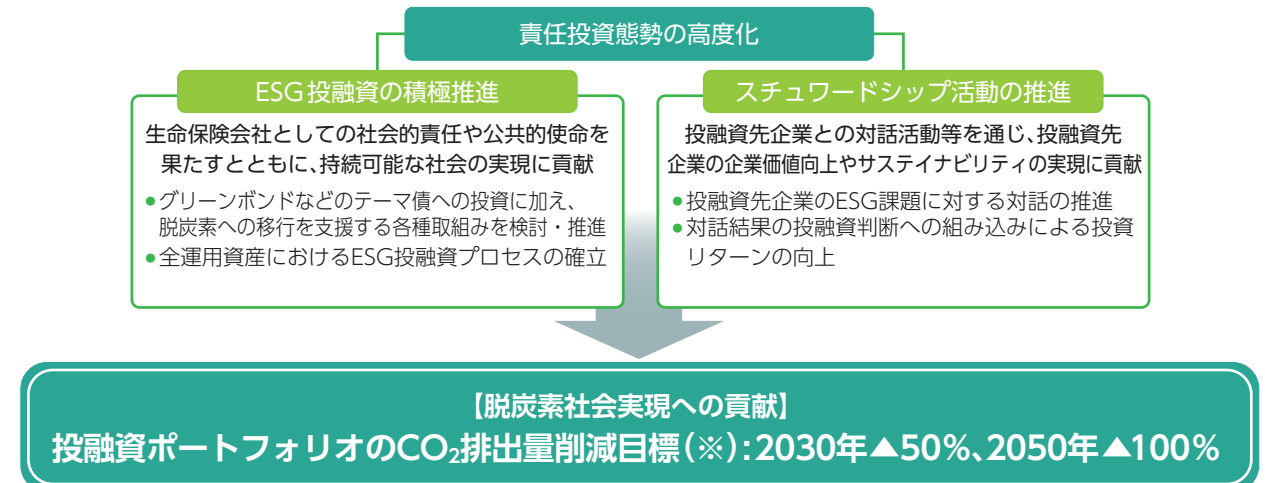
■ スチュワードシップ活動の推進

当社は、中長期的な視点に立ち、リスクを抑制しながら運用収益を確保することがお客さまに対する当然の責務であると認識のうえ、投資先企業の企業価値向上に伴う株主としての利益を中長期的かつ安定的に享受していくことを基本的な考え方として、株式投資を行なっています。そのなかで投資先企業との対話等を通じて、投資先企業の企業価値が最大となるよう促すことで、機関投資家としての責任を果たすべく、企業との対話活動や、議決権行使などのスチュワードシップ活動を推進しています。2020年度のスチュワードシップ(対話)活動は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン(Web会議)や電話による実施が増加しましたが、対話の対象に「国内社債」を加えたほか、「企業価値の向上(ESG課題への取組状況等)」の観点からの対話を拡充しました。



■ 責任投資を通じた、脱炭素社会実現への貢献

当社は、責任ある機関投資家として、ESG投融資やスチュワードシップ活動における対話活動を通じた投融資先企業の後押しなどを通じて、2030年に投融資ポートフォリオのCO₂排出量を50%削減、2050年のカーボンニュートラル実現をめざしています。



【用語解説】

スチュワードシップ活動：機関投資家が、受託者の責任として目的を持った対話(エンゲージメント)等を通じて、投資先企業の企業価値向上や持続的な成長を促すことにより、顧客(受益者)の中長期的な投資リターンの拡大を図る活動